

アレルギーとは

私たちの体には細菌やウイルスなど体にとって都合の悪いものが外から侵入したとき、これらを排除しようとするしくみがあります。そのうちの1つが免疫反応です。アレルギーはこの免疫反応が過剰になり、さほど害のない異物に対しても反応してしまうことによって起こるのです。

アレルギー反応はⅠ～Ⅳ型の4つの型に分類されますが、一般にアレルギー性疾患という場合は、多くはⅠ型のアレルギー反応に関係した疾患を指します。

Ⅰ型アレルギーは即時型で、抗原（アレルゲン）が作用して15分～2時間ぐらいの短時間で反応が起きます。初めの抗原の侵入によって多量に作り出されたIgE抗体が、再度の抗原侵入時に反応し、その結果マスト細胞から化学伝達物質が放出されることで発症します。食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、アトピー性皮膚炎などと深く関わっています。

Ⅳ型アレルギーは、血液中に存在する細胞の一種であるTリンパ球が起こすアレルギーです。即時型のⅠ型アレルギーに対しⅣ型アレルギーは遅延型で、抗原を体内に取り込んで半日から数日たって反応が起こります。Ⅳ型の代表的なものは接触皮膚炎です。